

令和5(2023)年度 文化庁国立近現代建築資料館 活動報告

Annual Activity Report of NAMA, 2023 (Reiwa 5) fiscal year

文化庁国立近現代建築資料館

I. 資料の調査・保管等

(カッコ番号は各資料のフォンド番号)

1. 各資料の作業

各資料について、次のとおり調査から保管までの業務(資料調査、資料受け入れ、借用・寄贈契約、返却、資料整理・研究、目録作成、デジタル撮影、燻蒸、修理、資料利用等)を行った。

(1) 坂倉準三建築設計資料

■ 資料整理

資料整理については、前年度からの継続作業として、これまで作成した目録データの公開に向けて順次整備、書式の更新等の作業を行った。また、資料閲覧に伴い未整理の写真資料の目録整備及びデジタル化を進めた。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「神奈川県立近代美術館」、「国立西洋美術館」、「新宿西口計画」、「神奈川県庁新庁舎」及び「箱根国際観光センター企画設計競技」資料の一部を公開した。

(2) 丹下都市建築設計所蔵マイクロフィルム

■ 資料調査

資料閲覧に伴い、目録と画像データの不一致の確認、閲覧における被覆の必要性の確認(日南文化センター、墨会館等)を行った。令和5年度には特例による画像の大量提供のために、同様の作業を継続して進めた。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「シンガポール・スポーツ・コンプレックス計画」資料の一部を公開した。

(3) 藤森照信旧蔵東京大学生産技術研究所建築史研究資料

■ 資料整理

前年度に引き続き借用中の資料について収蔵に向け概要の調査を行った。また、調査に基づき収蔵方法の検討を行った。

(7) 村田豊建築設計資料

■ 資料整理

ファイルレベル31-49～66に含まれるアイテムレベルの目録採録が未着手であるが、今年度は資料整理を実施できず。

(8) 吉阪隆正+U研究室建築設計資料

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「ヴィラ・クックウ」、「大学セミナーハウス」、「箱根国際観光センター競技設計応募案」資料の一部を公開した。

(10) 大高正人建築設計資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

第2回寄贈契約を締結した。第3回寄贈契約に向けた寄贈資料リストと旧蔵書誌リストの作成を行った。

■ 資料整理(第1回寄贈契約分)

図面類ファイルレベル67件について、アイテムレベルの目録約3,000件を採録した。次年度の採録に向けて図面のフラットニングを行なった。

■ デジタル化

図面類約1,450枚(ファイルレベル34件)のデジタル化を行った。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「千葉文化会館・千葉県立中央図書館」、「国立京都国際会館設計競技応募案」、「最高裁判所庁舎設計競技応募案」、「広島市基町団地・広島県長寿園団地」資料の一部を公開した。

(13) 渡辺仁資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応じている。

(14) 木村俊彦構造設計資料

■ 資料整理

約10ファイルについて、保全作業とアイテム目録の作成を行った。本作業には主に教育普及事業の一環として学生が従事した。

(15) 菊竹清訓建築設計資料

■ 概要

7月に追加の資料移送を行った。対象とした資料は写真資料、映像資料、出版物の版下資料、スケッチ資料および1980年代以降に設計された建築物の図面資料等である。これらをもって、上記種類の資料については、現状調査の限り資料館が収蔵・借用する資料で網羅された。第2回寄贈契約については、これらの作業のため令和6年度に先送りとなった。

■ 委託事業

今後の菊竹清訓建築設計資料の総体を示す資料編成の作成を目的とした資料研究業務を早稲田大学理工学術院古谷誠章研究室に委託した。委託の概要は、設計業務のプロジェクトごとに設計業務に関与した人物や組織、時期等を明らかにするものである。

■ 資料整理

令和5年度移送資料について、図面資料の資料保全を行った。当該業務は、効率的かつ適切に行うため、有限会社ナスカへ依頼した。また、閲覧等申請に対応し資料の詳細調査を行った。

■ デジタル化

寄贈された資料のうち、約1,000点の図面資料の基本画像(400dpi)と閲覧用画像(200dpi)を作成した。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において「出雲大社庁の舎」、「国立京都国際会館設計競技応募案」および「アクアポリス・沖縄国際海洋博覧会」資料の一部を公開した。

(16) 川添登資料

■ 資料整理

贈与契約に向けて輸送時の箱に収納された資料の包材入れ替え、数量確定、概要目録作成等を進めた。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「国立京都国際会館設計競技」の関連資料を公開した。

(17) こどもの国建築関係資料

■ 資料整理

資料閲覧に対応し、対象資料の詳細調査やデジタル化を行った。

(18) 吉田鉄郎資料

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「別府市公会堂」、「忠霊塔設計図案懸賞応募案」及び「東京中央郵便局」資料の一部

を公開した。

(19) 平田重雄資料

■ 概要

適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応じている。

(20) 岸田日出刀資料

■ 概要

図面資料(20-1-1～81)と、個人資料(20-2-1～82)からなる。適切な環境で資料を保管し、資料の利用に応じている。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「海外近代建築調査記録」、「ゴルフコースと倶楽部ハウスのデザイン」資料の一部を公開した。

(23) 高橋訥一・第一工房資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

令和4年度に実施した資料調査の成果を元に、第3回寄贈契約を締結した。また、第4回の寄贈契約に向け、未整理の事務所資料について数量確定及びファイルレベルの目録作成を進めた。

■ 資料整理(＝第1～3回寄贈契約分)

アイテムレベルの目録作成および長期保存に適した包材への収納作業を進めた。

■ デジタル化

図面約800枚のデジタル化を行った。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「佐賀県立図書館」、「国立京都国際会館設計競技 応募案」、「浪速芸術大学学園総合計画設計競技 応募案[現・大阪芸術大学]」及び「群馬県立館林美術館」資料の一部を公開した。

(24) 前川國男建築設計資料

■ 資料整理

閲覧希望があった図面資料及び写真資料について、目録の作成及びデジタル化を行った。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「晴海高層アパート」、「最高裁判所庁舎設計競技 応募案」、「ポンピドゥ・センター国際建築設計競技 応募案」資料の一部を公開した。

(25) 原広司+アトリエ・ファイ建築設計資料

■ 寄贈契約及び寄贈契約に向けた資料整理

令和4年度に実施した資料整理の成果を元に、第2回寄贈契約を締結した。また第3回寄贈契約に向

け、資料（図面・スケッチ・執筆原稿等）を原広司・アトリエ・ファイ建築研究所より新たに輸送した。

■ 資料整理（＝第1回寄贈契約分）

アイテムレベルの目録作成を進めた。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「栗津邸」、「浪速芸術大学学園総合計画 設計競技 応募案[現・大阪芸術大学]」、「ケルン・メディアパーク都市計画構想国際提案競技 応募案」及び「影のロボット」資料の一部を公開した。

(27) ヴァスムート社旧蔵吉田鉄郎関連資料

■ 資料整理

目録作成が完了した。目録は当館 DB で順次公開予定である。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において「書籍『JAPANISCHE ARCHITECTUR』（『日本の建築』）」に関わる資料の一部を公開した。

(28) 安藤忠雄初期建築資料

■ 資料整理

アイテムレベルの目録作成が完了した。目録は当館 DB で順次公開予定である。

■ デジタル化

図面約1,000枚のデジタル化を行った。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「住吉の長屋」、「光の教会」及び「水の教会」資料の一部を公開した。

(29) 篠井家旧蔵吉田鉄郎城端郵便局資料

■ 資料整理

アイテムレベルの目録作成が完了した。目録は当館 DB で順次公開予定である。

(30) 堀口捨己資料

■ 資料整理

資料の寄贈契約に向けた員数確認を行い、半数程度を完了した。令和6年度に完了予定であり、これをもとに資料の概要調査を添え資料受贈の検討を行う。また、堀口アーカイブズが作成した資料目録との照合を並行して行ったため、員数確認が完了した資料については当館書式の目録も作成している。

(32) 大谷幸夫建築設計資料

■ 資料整理

昨年度末に移渡し借用状態にある資料について、寄贈契約に向けて図面類から資料整理を着手している。今年度は、筒で保管されていた一部の図面のフ

ラットニングを開始した。

■ 展示

10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」において、「国立京都国際会館」、「最高裁判所庁舎設計競技 応募案」、「ポンピドゥ・センター国際建築設計競技 応募案」資料の一部を公開した。

2. 新規受け入れ資料の概要

(10) 大高正人建築設計資料（第2回寄贈契約）

大高正人は、1923年福島県三春町生まれ。1947年東京大学第二工学部建築学科卒業。1949年前川國男建築設計事務所入所。1960年世界デザイン会議にメタボリズムグループの一員として参加。1962年大高建築設計事務所設立。2010年逝去。

本資料群は、大高建築設計事務所（1962-2010）で行われた建築・都市計画業務に関する包括的な資料であり、建築図面（約1,000筒）、アパチャーカードなどを含む。今年度は製本図面、写真アルバム、スライド、事務所文書など1,934点の寄贈を受けた。

(23) 高橋訥一・第一工房資料（第3回寄贈契約）

高橋訥一は、1924年中国青島に生まれ、1945年に横浜工業学校（現・横浜国立大学工学部）航空機科卒業後、1949年に東京大学第二工学部建築学科卒業、同年より逓信省営繕部設計課に勤務。1956年に逓信省を退職し、武蔵工業大学建築学科助教授（～1966年）。

1960年に第一工房を設立。自身がキャンパスの全体計画を設計した大阪芸術大学では、建築学科設立と同時に主任教授に就任している。2016年逝去。

本資料群は第一工房において作成された建築設計図書、スケッチ、写真等の資料からなり、第一工房の発足当初から事務所解散直前までの期間の資料が含まれる。高橋の代表作である大阪芸術大学のコンペ及び実施図面をはじめ、「佐賀県立博物館」などの60年代の作品から後期の作品までの一連の建築作品設計図書やスケッチに加えて、写真、パンフレット、会社記録などが含まれる。本年度は第3回寄贈契約として図面やスケッチの他、竣工写真アルバムや構造計算書といった事務所資料など、計14,224点の寄贈を受けた。

(25) 原広司＋アトリエ・ファイ建築設計資料

（第2回寄贈契約）

原広司は、1936年神奈川県川崎市に生まれ、1959年に東京大学工学部建築学科を卒業後、1964年に同大学院博士課程修了、同年より東洋大学助教授を経て1969年より東京大学で教育・研究を行いながら、RAS建築研究所（1961年から1968年）、アトリエ・ファイ

建築研究所（1970年から1998年）、原広司＋アトリエ・ファイ建築研究所（1999年～）を拠点に設計活動を行った建築家である。

本資料群は、主として原広司のRAS建築研究所での活動及びアトリエ・ファイ建築研究所との協同において作成された建築設計図等からなる。本年度は第2回寄贈契約として、スケッチ資料8,278点の寄贈を受けた。

II. 展示・教育普及

1. 展覧会

令和5年度は、文化庁国立近現代建築資料館[NAMA]10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」を開催した。また、国立アイヌ民族博物館ブンカラ協働展示「アイヌの建築と工芸の世界―チセ、マキリ、アットゥシー」を共催した。並行して、令和6年度の「建築家・堀口捨己の探求 モダニズム・利休・庭園・和歌」展と「図面資料で見る国内の万国博覧会(仮)」展の企画立案を行い、運営委員会及び企画小委員会において意見をうかがった上で決定した。

(1) 展覧会の開催1

文化庁国立近現代建築資料館 [NAMA]
10周年記念アーカイブズ特別展
「日本の近現代建築家たち」

■ 開催概要

趣旨

文化庁国立近現代建築資料館（National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs [略称 NAMA]）は、平成24（2012）年11月に設置が決定され、平成25（2013）年5月に開館して、設立10周年を迎えました。日本の近現代建築は世界的にも評価が高く、それら資料の一部は有名海外美術館等でのコレクションにもなっています。こうした日本の新たな建築文化を国内で守り、アーカイブズとして発展させてゆくため当資料館は設立されました。この10年でコレクション（所蔵資料群）は30を超え、手描き図面を中心とした建築資料の収蔵は、20万点を超えました。図面をはじめ、スケッチ、関連資料、写真アルバム等、多岐に渡り、コレクションごとに内容は異なります。多様な資料を通し、近現代建築家たちの軌跡を見ることができます。この10年の活動を紹介しながら、NAMAの建築家アーカイブズより、日本の近現代を創り上げてきた12名の建築家たちに関

するコレクションを、2部に分けて紹介します。

第1部：覚醒と出発

建築家たちが建築界に名を刻んだ出発点となった作品や、日本の近現代建築の発展に大きく貢献した作品や活動を展示します。それぞれの建築家たちがどのような想いからこれらの作品を発想し、実現させたのか、これらの建築が社会や建築史においてどのような位置づけとなってゆくかをたどります。

第2部：飛躍と挑戦

建築家たちの飽くなき挑戦の数々を紹介します。代表的な作品のみならず、未完に終わった名作やコンペへの意欲的な応募案を加えた展示を通じて、生涯かけて挑み続ける建築家たちの創造力と生き様をご覧ください。

会場

第1部 令和5年7月25日（火）～10月15日（日）

第2部 令和5年11月1日（水）～令和6年2月4日（日）

会場 文化庁国立近現代建築資料館

（東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内）

主催 文化庁

協力 公益財団法人東京都公園協会

企画 文化庁 国立近現代建築資料館

■ 会場構成

第1部

- ① 前川國男・坂倉準三・吉阪隆正 「国立西洋美術館」
- ② 大高正人 「千葉県文化の森」
- ③ 菊竹清訓 「出雲大社庁の舎」
- ④ 高橋誠一 「佐賀県立図書館」
- ⑤ 岸田日出刀 ベルリンオリンピック視察写真
- ⑥ 丹下健三 「広島平和記念資料館」
- ⑦ 原広司 「栗津邸」
- ⑧ 安藤忠雄 「住吉の長屋」
- ⑨ 吉阪隆正 「ヴィラ・クックウ」
- ⑩ 吉田鉄郎 「別府市公会堂」
- ⑪ 坂倉準三 「神奈川県立近代美術館」
- ⑫ 前川國男 「晴海高層アパート」
- ⑬ 大谷幸夫 「国立京都国際会館」
- ⑭ アーカイブ展示 大高正人
- ⑮ アーカイブ展示 岸田日出刀
- ⑯ アーカイブ展示 吉阪隆正
- ⑰ アーカイブ展示 吉田鉄郎
- ⑱ アーカイブ展示 坂倉準三

- ⑲ アーカイブ展示 前川國男
- ⑳ 映像 (下記に詳細)
- ㉑ 映像 (下記に詳細)
- ㉒ 過去展覧会会場写真スライドショー
- ㉓ 過去展覧会ポスター及びチラシ裏面
- ㉔ 過去展覧会図録
- ㉕ 展示資料関連スライドショー

オーラルヒストリー視聴覚映像の公開

これまでに作成したオーラルヒストリーを編集し、第1部で9本を公開した。

※会期終了後、文化庁公式 YouTube チャンネル bunkachannel にて公開済

https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdJX38cDY2GoEbHMBmd9kqxh25UUZ

Theater NAMA Part 1 計63分

2013年「人間の為の建築 建築資料にみる坂倉準三展」より

オーラルヒストリー：北村脩一 「鎌倉近代美術館」分を編集

オーラルヒストリー：辰野清隆 「鎌倉近代美術館」分を編集

2014年「建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓」展より

オーラルヒストリー：穂積信夫 「菊竹は怒っている」

2015年「ル・コルビュジェ×日本 西洋美術館を建てた3人の弟子を中心に」展より

オーラルヒストリー：藤木忠善 「西洋美術館」

2015年「みなでつくる方法 吉阪隆正+U研究室の建築」展より

オーラルヒストリー：吉阪正邦、吉阪昭治 「家族の思い出 自邸とU研究室」

2019年「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展より

オーラルヒストリー：内田祥哉 「個人と組織」

Theater NAMA Part 1 at Lobby 計75分

2016年「建築と社会を結ぶ—大高正人の方法」展より
オーラルヒストリー：横文彦 「大高正人との出会い」

2017年「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s-1990s」展より

オーラルヒストリー：原広司

2017年「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s-1990s」展より

オーラルヒストリー：磯崎新

2020年「ミュージアム 1940年代 - 1980年代：始原からの軌跡」展より

オーラルヒストリー：青木淳

第2部

A. アーカイブ展示 原広司

B. アーカイブ展示 大谷幸夫

C. アーカイブ展示 菊竹清訓

D. アーカイブ展示 安藤忠雄

E. アーカイブ展示 高橋誠一・第一工房

F. アーカイブ展示 大高正人

G. 吉田鉄郎 「東京郵便局」

H. 坂倉準三 「新宿西口計画」

I. 坂倉準三 「神奈川県庁新庁舎」

J. 岸田日出刀 ゴルフコースと倶楽部ハウスのデザイン

K. 高橋誠一・第一工房 「群馬県立館林美術館」

L. 丹下健三 「シンガポール・スポーツ・コンプレックス計画」

M. 忠霊塔設計図案懸賞 応募案

N. 国立京都国際会館設計競技 応募案

O. 浪速芸術大学学園総合計画設計競技 応募案

P. 吉阪隆正+U研究室 「大学セミナーハウス」

Q. 最高裁判所庁舎設計競技 応募案

R. 箱根国際観光センター企画設計競技 応募案

S. 菊竹清訓 「アクアポリス・沖縄国際海洋博覧会」

T. ポンピドゥ・センター国際建築設計競技 応募案

U. 大高正人 「広島市基町団地・広島県長寿園団地」

V. 原広司 「ケルン・メディアパーク都市計画構造国際提案競技」 応募案

W. 原広司 「影のロボット」

X. 安藤忠雄 「水の教会」

Y. 映像 (下記に詳細)

Z. 過去展覧会関連 (会場写真、ポスター、チラシ裏面、図録) / 第1部及び展示資料関連スライドショー

オーラルヒストリー視聴覚映像の公開

これまでに作成したオーラルヒストリーを編集し、第2部で7本を公開した。

※会期終了後、文化庁公式 YouTube チャンネル bunkachannel にて公開済

https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdJX38cDY2GoEbHMBmd9kqxh25UUZ

図 録



Theater NAMA Part 2 計62分

2014年「建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓」展より

オーラルヒストリー：遠藤勝勸・小川惇・長谷川逸子 国立京都国際会議場設計競技について

2015年「みなでつくる方法 「吉阪隆正+U研究室の建築」展より

オーラルヒストリー：戸沼幸市・矢内秀幸 「吉阪隆正の建築の方法」

2016年「建築と社会を結ぶ一大高正人の方法」展より

オーラルヒストリー：藤本昌也・増山敏夫 「大高正人のデザイン」より一部抜粋

2019年「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展より

オーラルヒストリー：隈研吾 「保存と改修」

Theater NAMA Part 2 at Lobby 計49分

2016年「建築と社会を結ぶ一大高正人の方法」展より

オーラルヒストリー：荻原敬 「PAU とはなにか」

2017年「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s-1990s」展より

オーラルヒストリー：高松伸

2020年「ミュージアム1940年代 - 1980年代：始原からの軌跡」展より

オーラルヒストリー：原広司

■グラフィックデザイン

ポスター (B2版 片面カラー) 800部

チラシ (A4判 両面カラー) 40,000部

ハンドアウト (B5判8頁) 6,000部

図録 (B5判76頁) 5,000部

デザイン 胡桃ヶ谷デザイン室

■メディア掲載

雑誌

季刊「住む」 2023年秋号 P.124

建築画報 2023年9月号 information

MONO マガジン 2023年9-16号 P.138

新建築住宅特集 2023年9月号 exhibition

CASA ブルータス 2023年10月号

近代建築 2023年10月号 information

東京人 2023年11月号 P.140

ブレーン 2024年2月号 P.125

EAST TIMES 2024年冬号 P.12

会場写真



エントランスタイトルウォール



ロビー 10年間の収集・展示活動の紹介



第1部会場全景



第2部会場全景

WEB

FASHION PRESS

2023年7月12日

展覧会「日本の近現代建築家たち」東京・国立近現代建築資料館で、安藤忠雄ら12人の建築家の作品を紹介

JDN

2023年7月12日

日本の近現代建築家たち

KATYCOM

2023年7月25日(火)～2024年2月4日(日)

今見られる全国のおすすめ展覧会100～日本の近現代建築家たち

BUNGA NET

2023年7月30日

日曜コラム洋々亭52：国立近現代建築資料館「10周年展」に重ね見る故・鈴木博之氏の想いと建築資料の未来

2023年11月11日

国立近現代建築資料館「10周年展・第2部」が開幕、雑誌的な“対決展示”にやられたっ！

TECTURE MAG

2023年8月5日

開館から10年を迎えた文化庁国立近現代建築資料館～10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」開催中

MODERN LIVING

2023年8月8日

世界で活躍する建築家12名の作品を紹介！展覧会「日本の近現代建築家たち」がNAMAで開催～前川國男さんや丹下健三さん、安藤忠雄さんらが手掛けた有名建築の貴重な所蔵資料を展示。

CONFORT

2023年8月8日

文化庁国立近現代建築資料館 [NAMA] 10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」

TD MEDIANET

2023年12月22日

建築資料が示す思考のダイナミズム：文化庁国立近現代建築資料館・開館10周年記念展レポート

テレビ放映

『日曜美術館 坂倉準三編』

2024年1月21日(日) AM9:00～9:45

戦後新宿・渋谷をつくった建築家 坂倉準三

■ 来場者数

○来場者数（第1部・第2部合計）

日数	正門	岩崎邸	計
第1部	2,032人	5,631人	7,663人
第2部	2,398人	6,073人	8,471人
合計	4,430人	11,704人	16,134人

○参考：

（第1部・第2部合計）

日数	正門	岩崎邸	計
148日	90日／148日	148日／148日	—
—	4,430人	11,704人	16,134人
—	27%	73%	—

（第1部）

日数	正門	岩崎邸	計
72日	45日／72日	72日／72日	—
—	2,032人	5,631人	7,663人
—	27%	73%	—

（第2部）

日数	正門	岩崎邸	計
76日	47日／76日	76日／76日	—
—	2,398人	6,073人	8,471人
—	28%	72%	—

■ ガイドツアー

- ・第1部 9回定期開催 参加者計149人
- ・第2部 8回定期開催 参加者計124人

(2) 展覧会の開催2（共催）

国立アイヌ民族博物館 プンカラ協働展示
「アイヌの建築と工芸の世界
—チセ、マキリ、アットウシー—」

■ 開催概要

プンカラ協働展示は、アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク事業（愛称 プンカラ）の事業として、国立アイヌ民族博物館と68の会員機関が協力し、アイヌ文化を紹介する展覧会です。

「チセ」はアイヌ語で「家屋」を指す言葉です。生活の中心となるチセは、人が生まれ、育ち、仕事をし、カムイに祈る場所です。チセの建材はもちろん、祭事具や道具の素材には植物が多く用いられています。男性はマキリ（小刀）で木を彫りだして、独自の文様を刻み、女性は樹皮からつくった糸で布を織り、刺繍を施して、アットウシ（樹皮衣）をつくり上げました。このような木で作られたものを使いながら、今もカムイとともに暮らしているのです。

本展覧会では、伝統的なチセのつくりや使われ方を中心に、植物を素材としたアイヌの民具を紹介し

ます。さらに、現代の作り手による工芸品など今に息づくアイヌ文化をご覧ください。チセを中心としたくらしから、アイヌ文化への理解を深めていただければ幸いです。

主催：国立アイヌ民族博物館

共催：文化庁国立近現代建築資料館、浦幌町立博物館、新ひだか町博物館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館

後援：北海道アイヌ協会

会場：文化庁国立近現代建築資料館

（東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内）

会期：令和6年3月1日（金）～令和6年3月24日（日）

■ 来場者数

5,790名（21日間）

(3) 展覧会の準備1

令和6年度に向け、夏季展覧会の企画立案を進めた。

■ タイトル

建築家・堀口捨己の探求

モダニズム・利休・庭園・和歌

(4) 展覧会の準備2

令和6年度に向け、冬季展覧会の企画立案を進めた。

■ 第一候補 図面資料で見る国内の万国博覧会（仮）

■ 第二候補 前川國男とテクニカル・アプローチ

戦後の近代建築普及において、前川國男のテクニカル・アプローチは、特に建築の技術的な面の成熟にとって重要な意味を持った。収蔵資料である日本相互銀行を中心として一連の建築作品に見られる技術面での様々な革新の様を展示し、これらの作品において、前川作品のその後の技術的革新が確立されたことを紹介する。

2. 資料提供

(1) 現物（貸出先：貸出資料 用途）

・令和5年度の現物資料については、貸し出しなし。

(2) 画像（貸出先：貸出資料 用途）

- ・団体：丹下マイクロ（マイクロリール）美術館展覧会へ向けて企画展示調査 69本（リール単位）
- ・団体：吉田鉄郎（別府市公開 他）所有者による学術的調査研究（資料編纂） 637点
- ・企業：吉阪隆正（大学セミナーハウス）テレビ東京『新 美の巨人たち』放映 2日間 9点

- ・団体：菊竹清訓（萩市民館 他）美術館展覧会での企画展示7点
- ・団体：大高正人（坂出人工土地）美術館展覧会での企画展示1点
- ・個人：木村俊彦（千葉県文化会館聖賢堂増築 他）論文及びテキスト執筆のための学術的調査研究 190点
- ・個人：菊竹清訓（K 邸軽井沢 他）学術研究調査84点
- ・個人：大高正人（坂出人工土地）学術研究調査345点
- ・個人：大高正人（千葉県文化会館）大学入試課題レポート6点
- ・個人：坂倉準三（大阪府総合青少年野外活動センター）学術研究調査及び模型製作167点
- ・個人：坂倉準三（仁木邸・平野邸）講義参考資料として揭示及び展示65点
- ・個人：坂倉準三（戦争組立建築）卒業論文執筆のための研究調査33点
- ・個人：吉阪隆正（吉阪自邸 他）卒業論文執筆のための研究調査208点
- ・個人：吉阪隆正（涸沢ヒュッテ 他）卒業設計のための研究調査146点
- ・個人：坂倉準三（神奈川県立美術館）卒業論文執筆のための研究調査37点
- ・個人：坂倉準三（神奈川県立美術館）卒業論文執筆のための研究調査11点
- ・企業：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）NHKBS 再・再放映6日間『美の壺（天井編）』1点
- ・団体：坂倉準三（羽島市庁舎関連）所有者によるアーカイブ資料作成のため30点
- ・個人：前川國男（プレモス）卒業論文執筆のための研究調査4点
- ・個人：前川國男（プレモス）卒業論文執筆のための研究調査118点
- ・企業：坂倉準三（パリ万博日本館写真資料）書籍掲載『今に生きる料亭三長』1点
- ・企業：大高正人（広島基町団地）雑誌掲載及び会員限定WEB 媒体『ビルディングレター 12月号』4点
- ・個人：丹下都市建築設計（日本オリベッティ 他）学術研究調査262点
- ・企業：菊竹清訓（スカイハウス 他）書籍掲載『建築家による「日本」のディテール』2点
- ・企業：吉阪隆正（ヴェニスビエンナーレ日本館）書籍掲載『建築家による「日本」のディテール』5点
- ・個人：岸田日出刀（広東生活記録 他）学術研究調査568点
- ・個人：吉阪隆正（大島町立第一中学校・体育館 他）学術研究調査260点
- ・団体：坂倉準三（羽島市庁舎関連）所有者によるアーカイブ資料作成のため170点
- ・個人：木村俊彦（日本生産工学部図書館構造計算書）学術研究調査42点
- ・個人：吉阪隆正（近藤邸 他）学術研究調査351点
- ・団体：坂倉準三（新宿西口広場および地下鉄駐車場）所有者による改修工事240点
- ・個人：岸田日出刀（ベルリン五輪視察（1936））論文集への掲載『アート・ドキュメンテーション』1点
- ・個人：渡辺仁（塔）論文集への掲載『アート・ドキュメンテーション』1点
- ・個人：岸田日出刀（ブルーノ・タウトからの書簡）学術研究調査5点
- ・個人：大高正人（日本大学生産工学部図書館）DOCOMOMO Japan に関する評価作成及び日本大学生産工学部学術講演会での発表101点
- ・企業：吉阪隆正（涸沢ヒュッテ ろ-ろ断面図）雑誌掲載『山と溪谷 2023年7月号』1点
- ・企業：菊竹清訓（石原記念館）耐震改修優秀建築賞に応募（優秀建築表彰の結果としてのWEB 掲載も含む）5点
- ・個人：吉阪隆正（ヴェニスビエンナーレ日本館）学術論文執筆につき研究調査 及び掲載のため113点
- ・企業：渡辺仁（晩年の渡辺仁肖像写真）NHK Eテレ・TVer 他 再・再放映2日間『美の壺（天井編）』1点
- ・個人：坂倉準三（神奈川県立近代美術館写真資料）学術論文へ投稿（日本建築学会論文集査読付き論文）及び掲載のため。題名「鎌倉近代美術館における構造と意匠の研究」1点
- ・個人：大高正人（日本大学図書館生産産工学部分館）DOCOMOMO Japan に関する評価作成及び日本大学生産工学部学術講演会での発表101点
- ・個人：前川國男（日本相互銀行渋谷支店）学術論文執筆のための研究調査及び掲載6点
- ・個人：こどもの国（文書関連 他）学術研究調査41点
- ・個人：坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭 他）学術研究調査123点
- ・企業：吉阪隆正（大学セミナーハウス）テレビ東京・BS テレ東『新 美の巨人たち』放映2日間3点
- ・団体：吉阪隆正（ヴェニスビエンナーレ日本館）第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にお

- ける日本館展示『愛される建築を目指してー建築を生き物として捉える』67点
- ・団体：吉阪隆正（ヴェニスビエンナーレ日本館）第18回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館ハンドアウトへ掲載『愛される建築を目指してー建築を生き物として捉える』67点
- ・企業：木村俊彦（自動車労連教育センター）所有者による改修工事のため33点
- ・個人：菊竹清訓（スカイハウス）所有者による改修工事のため302点
- ・企業：坂倉準三（パリ万博日本館写真資料）書籍掲載『万博をタイムトラベル 博覧会と私たちのくらし』1点
- ・個人：菊竹清訓（スカイハウス）卒業制作に係る模型製作のために参考調査3点
- ・団体：吉田鉄郎（日向氏熱海別邸）所有者による重要文化財『旧日向家熱海別邸』の再公開（生涯学習課文化交流室連携）展示1点
- ・個人：こどもの国（こどもの国 A 地区児童遊園 他）学術的調査研究28点
- ・個人：坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭 他）学術的調査研究74点
- ・個人：坂倉準三（大阪スタジアム）学術的調査研究44点
- ・団体：坂倉準三（国立西洋美術館工事中写真）新設歴史資料館の常設展示室（2箇所）でのモニター等への画像放映他6点
- ・個人：吉田鉄郎（検見川無線送信所 他）学術研究調査428点
- ・個人：大高正人（常磐橋再開発計画 他）学術研究調査39点
- ・個人：大高正人（坂出人工土地図面）学術研究調査26点
- ・企業：大高正人（広島基町団地）WEB媒体のみ更新『ビルディングレター』12月号4点
- ・団体：吉田鉄郎（馬場氏牛込邸）所有者による囲障調査18点
- ・企業：安藤忠雄（住吉の長屋ー東邸）書籍掲載『近代建築の空間から BIM を学ぶー住吉の長屋ー』28点
- ・個人：菊竹清訓（畠山美術館）学術的調査研究145点
- ・個人：前川國男（プレモス5103）卒業論文執筆のための研究調査118点
- ・個人：こどもの国（こどもの国 A 地区児童遊園 他）学術的調査研究28点

- ・個人：坂倉準三（ディーゼル博士記念石庭 他）学術的調査研究74点

(3) 資料閲覧及び複写の提供

資料閲覧及び複写の提供実績の概要は、以下のとおりである。

ア. 閲覧実施件数及び閲覧点数の実績

- ・実施件数：72件

[未寄贈（借用中）につき取次ぎのみ]

- ・菊竹清訓（東光園、海の家）
- ・高橋誠一（第一工房資料浪速芸術大学設計競技1等案）
- ・堀口捨己（小出邸 他）
- ・川添登（石本泰博に関連する資料）

[レファレンスのみ]

- ・渡辺仁（「ホテルニューグランド」設計当時の肖像写真）
- ・吉阪隆正（八王子セミナーハウス）
- ・丹下健三マイクロ（丹下健三自邸 居間でくつろぐ 丹下健三と浅田孝、東京湾プロジェクト、広島平和記念公園1952、東京計画1960、東京カテドラル聖マリア大聖堂、トリエステ計画、ボストン湾計画1959、オラン総合大学、WHO 競争1960、東京湾計画1961、代々木国立競技場、石本泰博に関連する資料）
- ・菊竹清訓（バサディナハイツ、井上靖文学館、海上都市スケッチ、スカイハウス図面一式、国鉄久留米駅、BS 朝日町住宅、BSNo17・18アパート、久留米医大基礎学教室、久留米医大看護婦宿舍、BS 母子寮、徳雲寺納骨堂、徳雲寺本堂、原賀医院、永福寺幼稚園、高良山住宅、菊竹木造住宅に関する図面一式）
- ・前川國男（東京文化会館、紀伊国屋書店、前川木造住宅に関する図面一式、1974東京海上ビル本館）
- ・坂倉準三（駐仏日本大使公邸に関する図面、スケッチ、写真、大阪スタジアム、平野邸、坂倉木造住宅に関する図面一式）
- ・安藤忠雄（表参道ヒルズ、国際子ども図書館、城戸崎邸、大淀のアトリエⅠ、Ⅱ、水の教会、六甲の教会）
- ・妹島和世（すみだ北斎美術館）
- ・木村俊彦（K2ビルディング、東京体育館、千葉文化会館聖賢増築）
- ・磯崎新著書（見立ての手法 日本の空間の読解）
- ・池辺陽（渋谷区復興計画資料）

[閲覧に供した資料点数：4,121 点]

- ・資料群別の実施件数
- ・坂倉準三建築設計資料：21件 681点
- ・前川國男建築設計資料：8件 305点
- ・吉阪隆正建築設計資料：5件 613点
- ・菊竹清訓建築設計資料：3件 436点
- ・大高正人建築設計資料：5件 391点
- ・岸田日出刀建築設計資料：2件 4点
- ・こどもの国資料：5件 171点
- ・丹下マイクロ資料：3件 75点
- ・木村俊彦資料：10件 3501点
- ・角田栄資料：2件 10点
- ・吉田鉄郎資料：6件 1084点
- ・ル・コルビュジェ資料：1件 1点

イ. 複写の提供実績

- ・提供件数：2件
- 吉阪隆正（ヒュッテアルプス）学術研究調査39点
- 吉阪隆正（青鹿寮）学術研究調査12点

3. 第4回近現代建築アーカイブズ講習会【中止】

近現代の建築資料を所蔵する組織の学芸担当者等を対象とし、近現代建築資料における収集、整理、保存及び利用等に関する必要な専門的知識と技能の習得を目的として令和元年、2年と開催してきたが、令和3年度、令和4年、令和5年度は新型コロナウイルス感染症流行状況の予測が困難であったため、開催を中止した。

4. 教育普及事業の一環として学生の受け入れ

令和5年8月7～10日、16～18日、28～31日、計11日間。日本大学生産工学部建築学科 3名受け入れ。資料整理等について実習を行い、館の事業である「教育普及」、アーカイブズの職務である「普及」、情報担当の業務である「専門的研修・情報提供」及び「類縁機関（大学含む）との連携」を意識し指導を行った。

5. 『国立近現代建築資料館紀要』第3号刊行

当館の収蔵資料に関する情報と、館職員や協力者の調査研究成果の公開について、研究論文や資料紹介等を掲載する『国立近現代建築資料館紀要』第3号を令和5年12月にオンラインと印刷（A4判、59ページ）の両方で刊行した。逐次刊行物としてISSNを取得している（ISSN 2436-6757（オンライン）ISSN 2436-6765（印刷））。第1号、第2号と併せてJ-Stageに đăng載し、安定して長期公開を行う体制を整えた。内容は以下のとおりである。

・論文

原広司の建築論—世界の建築思潮の変遷との比較考察—（小林克弘）

近現代建築に関わる構造資料の承継とデジタル資料管理について（浜田英明、藤本貴子、竹内 徹）

樋口清旧蔵吉田鉄郎蔵書 LE CORBUSIER-SAUGNIER, Verune architecture（初版）について（加藤道夫、寺内朋子、青山（高瀬）道乃）

こどもの国建築関連資料整理及び展覧会開催報告（小池周子）

・プロジェクト解説

建築アーカイブズ研修映像教材の制作（令和3、4年度）（田良島 哲）

・報告

国立近現代建築資料館における資料収集の手法について—令和4年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）短期コースに参加して—（青山（高瀬）道乃）

・年次報告

令和4年度国立近現代建築資料館活動報告

6. 収蔵資料検索システムの公開・運用

令和3年6月に公開した収蔵資料検索データベース（<https://db.nama.bunka.go.jp>）を運用している。収蔵する資料群の概要公開（21資料群）、ファイル（図面筒、図面フォルダ等）レベルまでの目録公開（9資料群）、アイテム（個別の図面や資料）レベルまでの目録公開（7資料群）、サムネイル画像の公開（一部：3資料群）をしている。データベースサーバの管理は（株）IT サービス・フレットに委託した。

7. 資料のデジタル化

令和2年度から、一貫した仕様でのデジタル化作業をとりまとめて実施している。令和5年度は4,383点について、スキャナによる高精細デジタル化を行なった。

10_ 大高正人資料 1,450点

15_ 菊竹清訓資料 989点

20_ 岸田日出刀資料 164点

23_ 高橋訖一・第一工房資料 803点

28_ 安藤忠雄資料 977点

8. 地方自治体への協力・助言

地方自治体は、著名な建築家の設計による多くの公共建築を現有している。経年劣化・強度不足などを理由に取り壊される事例が多いなかで、その価値や可能性に着目し、保存・改修・活用を目指す地方自治体が

増えてきた。その際、建築資料館収蔵資料活用の有効性を検討・実証し、積極的に地方自治体と連携していくことは、文化財を用いた地域活性化の事例となるだけでなく、広く建築文化の醸成につながり、また NAMA の活動を広く社会に周知する活動ともつながる。

(1) 館林市民センター（菊竹清訓設計）の 利活用検討への協力

菊竹清訓の設計により 1963 年に竣工した「旧・館林市庁舎（以下、旧市庁舎）」は、菊竹の初期の代表的な作品のひとつであり、その設計資料は NAMA の収蔵資料に含まれる。旧市庁舎は、現在は市庁舎としての機能を終え、市民センターとして活用されている。同市は、旧市庁舎の耐震診断を行った結果、耐震強度不足が認められないこと、市内の有志による保存活用についての強い要望があることから、旧市庁舎を、原形を保全し活用を図る目的で、同市内に拠点を置く任意団体にその業務を委託した。

今後、旧市庁舎が継続的に有効活用されていく上で、同市内外からの幅広い認知と活動支援は必須である。NAMA は、任意団体ならびに市職員からの相談を受け、2023 年 11 月末に開催されたイベントに企画から参画し、市民向けのワークショップの開催、菊竹清訓建築設計事務所出身で世界的にも著名な建築家である長谷川逸子氏を招いて行われた講演会にも携わった。

建築設計資料は、それだけが独立して存在しているわけではなく、それらを用いて実際の建築物が建てられているのだから、実際の建築物とは表裏一体の関係にあるものである。それぞれの地域において現存し、多くの住民の記憶の一部となっている近現代建築の保存・活用に際し、収蔵資料のデジタル化データの貸し出しなどが行われ、住民への理解や関心が向上し、その先に新たな資料収蔵の要望が醸成されるようであれば、現時点で NAMA に収蔵しきれない関連資料の一部、たとえば大型の模型資料などの滅失を防ぐ機会にもつながる。そうした観点からも、また、増え続ける建築設計資料の分散的配置といった観点からも、こうした先を見据えた活動は重要である。

(2) 神奈川県立図書館・前川館（前川國男設計）の 展示方法検討への協力

神奈川県立図書館（現・神奈川県立図書館分館・前川國男館、以下、当該建物）・音楽堂は、建築家・前川國男の初期の代表作であり、1954 年に神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘に竣工した。

神奈川県教育委員会（以下、委員会）は、新県立図書館の建設にあたり、広く県民から愛されてきた当該建物を壊すことなく、耐震改修を行い、「前川國男館」と名付け、積極的な保存活用を目指している。そして、当該建物内に前川國男ギャラリー（仮称）を設け、当該建物および建築家・前川國男の関連資料の展示を検討する過程で、建築資料の展示方法や展示条件などについて NAMA に助言を求めてきた。NAMA 職員が現地へ赴き、当該建物の視察及び関係者との打ち合わせを経て、助言を行った。実物の横でその図面を読むことができる好条件の活用といった展示方針に加え、県が所有する当該建物の資料（青焼き図面）の展示に際しては、デジタル化の促進、劣化保護のための配慮を怠らないことなど、資料滅失の阻止につながる助言を行った。

開館から 10 年の経験を通じて、NAMA 内には資料の保全に関する科学的知識が蓄積されつつある。そうした専門知識に基づく展示技術の伝達も、NAMA の教育普及活動の一環として位置付けられよう。

(3) 茅ヶ崎市美術館の展示計画検討への協力

茅ヶ崎市美術館は、R7 年度に建築展＝「美術館建築——アートと建築が包みあうとき（仮）」の開催を企画している。しかし、担当学芸員は建築展の経験がなく、展示作品選定に際しての助言を求められた。そして同館は NAMA との共催を希望している。

昨今は、近現代の建築および建築家を主題とした展覧会が、美術館で開催されることが多くなった。近現代建築への社会認知が進んだ証であるといえよう。したがって、今後もさまざまな美術館・博物館・資料館などで建築展の開催は広がることであろう。しかし、多くの施設においては、建築専門の学芸員やアーキビストといった人材が確保されておらず、収蔵資料の貸し出しに加えて資料館への協力・共催の要請は増えるものと思われる。建築文化の発信という観点から、このような協力・共催についても、積極的に行っていくことが求められる。

9. 海外の展示施設や教育施設への協力と交流

海外の美術館・博物館からの視察を受け入れると共に、海外で計画されている展覧会への資料提供を行った。また、海外からの学生グループが教員に引率されて展覧会を見学する機会も増えてきている。

(1) 海外の美術館・博物館からの視察受入れ

・オランダ Museum Het Schip・館長 Alice Roegholt

2023年7月29日

・韓国国立文化財研究所・研究員5名 2023年6月20日

・ニューヨークメトロポリタン美術館・学芸員アブラハム・トーマス 2024年2月2日

(2) 海外の美術館・博物館への展示資料の提供

・オランダ Museum Het Schip の堀口捨己展 (2023年9月) へのデジタル化資料の提供

(3) 海外の大学の建築学科学学生グループへのガイド等

・台湾・中国文化大学 17名 2023年9月5日

・ドイツ University of Kaiserslautern 20名 2023年9月10日

Ⅲ. 情報収集

これまでに作成したオーラルヒストリーの整理・編集と公開

- ① 第1部での公開 10周年特別展に際して、これまでに作成したオーラルヒストリーを整理編集し、第1部では、9本を公開した。(p.57参照)

※会期終了後、文化庁公式 YouTube チャンネル bunkachannel にて随時公開を進めた。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdjX38cDY2GoEbHMBmd9kqhx25UUZ

- ② 第2部での公開 10周年特別展第2部では、7本を公開した。(p.57参照)

※会期終了後、文化庁公式 YouTube チャンネル bunkachannel にて随時公開した。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdjX38cDY2GoEbHMBmd9kqhx25UUZ

Ⅳ. 調査研究等

収蔵資料周辺の空気質測定調査

〔調査の背景と目的〕

近現代建築資料では、トレーシングペーパーや美濃紙に描かれた図面をはじめとして、青焼図面、フィルム、アパチャーカード、オープンリール、粘土製の模型など、様々な素材および技法が使用されている。NAMAにおいても多種多様な資料を収蔵しているものの、それらの保存・管理に対する知見は十分とは言えない。また、一部の素材からは有害ガスが発生することが既往研究において指摘されているが、それらは資料自体の劣化を招くだけでなく、周辺に保管されている他資料の劣化にも影響を与えてしまう可

能性がある。そこで今年度は簡易的な調査として、特殊素材の収蔵品周辺空間に対する有機酸およびアンモニアの測定調査事業を実施した。

〔調査方法の概要〕

調査実施期間：2023年12月11日(月)

～12月14日(木)

調査実施者：株式会社フミテック

パッシブインジケータ72時間測定法およびエアースンプラー採取検知管法を採用した。

NAMA 資料保管庫内の調査対象空間13か所に対し、パッシブインジケータ有機酸用(CID-80B)・アンモニア用(CID-3B)を設置し、72時間後に回収した。回収したパッシブインジケータは専用ソフトにて撮影、分析により、個別に数値化した。

また、3か所についてはエアースンプラー(ASP-1200型)により30分間試料ガスを吸引し(200mL/min)採取後、検知管(北川式ガス検知管910)の変色により濃度を読み取った。

〔調査結果および対策〕

アパチャーカードおよびフィルム保管箇所からは基準値を超える有機酸が検出された。よって、酢酸ガスの吸収分解に効果のある保存剤を設置し、劣化防止策を講じた。調査実施者からはフィルム保管箇所について高温多湿を避けると同時に、通気性を確保することが有効である旨の指摘があった。また、特に劣化が著しく進行していた資料については他の資料から隔離された空間へ移動したほか、内容の減失を防ぐため資料のデジタル化を別途実施した。

また、基準値内ではあるものの、シアノタイプの青焼き図面の保管箇所からは一定量のアンモニアが検出された。これらは他資料の劣化に影響を与える可能性は低いものの、ガスの自然な放散を促すべく、十分な換気を行う方針を確認した。

V. 委員会

1. 運営委員会

令和5年度委員

(◎は委員長、○は委員長代理、五十音順 敬称略)

大村理恵子(パナソニック汐留美術館主任学芸員)、○加藤雅久(居住技術研究所主宰)、◎川向正人(東京理科大学名誉教授)、隈研吾(東京大学特別教授・名誉教授)、近角真一(日本建築士連合会会長)、田路貴浩(京都大学大学院教授)、山名善之(東京理科大学教授)

開催状況

第23回：令和5年9月11日 ※Web会議

〔主な議題〕

・資料の受入について

①大熊喜邦建築資料（仮）

②日経 BP 建築写真資料

・展覧会の開催について

令和6年度（2024年度）展覧会企画（案）

第24回：令和6年3月18日 ※Web会議

〔主な議題〕

・展覧会の開催について

令和6（2024）年度夏季展覧会企画（案）

令和6（2024）年度冬季展覧会企画（案）

・今後の事業計画について

2. 小委員会

(1) 収集小委員会 ※Web会議

令和5年度委員（◎は委員長、五十音順 敬称略）

加藤諭（東北大学准教授）、◎加藤雅久（居住技術研究所主宰）、角田真弓（東京大学技術専門職員）、藤本竜也（千葉工業大学教授）、山崎幹泰（金沢工業大学教授）

開催状況

第19回：令和5年8月30日 ※Web会議

〔主な議題〕

・資料の受入れについて

1 大熊喜邦建築資料

第20回：令和6年2月21日 ※Web会議

〔主な議題〕

（報告事項のみ）

(2) 企画小委員会

令和5年度委員（◎は委員長、五十音順 敬称略）

大村理恵子（パナソニック汐留美術館主任学芸員）、鈴木明（武蔵野美術大学教授）、◎田路貴浩（京都大学大学院教授）、前田尚武（京都市京セラ美術館企画推進ディレクター）、米山勇（東京都江戸東京博物館研究員）

開催状況

第18回：令和6年2月29日

〔主な議題〕

・令和6年度 夏季展覧会企画（案）

(3) 情報小委員会

令和5年度委員（◎は委員長、五十音順 敬称略）

後藤真（国立歴史民俗博物館准教授）、齋藤歩（京都大学総合博物館特定助教）、永崎研宣（人文情報

学研究所主席研究員）、本間友（慶應義塾ミュージアム・commons専任講師）、森本祥子（東京大学文書館准教授）、◎山名善之（東京理科大学教授）

開催状況

第14回：令和6年3月4日

〔主な議題〕※報告事項のみ

VI. 運営

1. 施設の充実

特段の記載事項なし。

2. 広報・広聴

(1) 資料館ウェブサイト

ウェブサイトの保守管理を（株）ナカヨに委託して運用した。館の概要、閲覧等利用の案内、展覧会の開催、開館・閉館の予定等を告知するとともに、刊行物のデジタルファイル等を掲載した。

(2) 文京ミューズネットマップ2023-2024

文京区内の美術館・博物館等のマップである標記に情報を掲載した。

(3) アンケート調査

「文化庁国立近現代建築資料館〔NAMA〕10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」の第1部及び第2部の来館者に対して、展覧会の評価等に関するアンケート調査（任意）を実施した。

3. 研修参加

アーカイブズ管理に対する職員の能力向上のため、以下の研修に参加した。

・国立公文書館 アーカイブズ研修Ⅰ（基礎コース）

2023年8月21日（月）～8月25日（金）

参加者：王聖美

・国文学研究資料館 アーカイブズ・カレッジ

（短期コース）

2023年11月6日（月）～11月11日（土）

参加者：秋岡安季

・文化庁 図書館等職員著作権実務講習会

2023年12月15日（金）

参加者：室田恵実

VII. 予算

令和5年度予算額 近現代建築資料等の収集・保管
106,857千円

VIII. 組織

令和5年度職員名簿

館長(文化庁企画調整課長) 寺本 恒昌
館長補佐(企画調整課課長補佐) 伊野 哲也
副館長 吉野 孝行

【研究系】

主任建築資料調査官(収集担当)
大宮司 勝弘(R5.11.30まで)
主任建築資料調査官(収集担当)
橋本 純(R6.1.1から)
主任建築資料調査官(企画担当)
小林 克弘
主任建築資料調査官(情報担当)
橋本 純(R5.12.31まで)
主任建築資料調査官(情報担当)
ジェームス・ランビアーシ(R6.1.22から)
研究補佐員 秋岡 安季
研究補佐員 青山(高瀬) 道乃
研究補佐員 小池 周子(R5.11.30まで)
研究補佐員 王 聖美
研究補佐員 門間 光(R5.9.30まで)
研究補佐員 久下 高豊(R5.12.1から)

【事務系】

事務室長 吉野 孝行 ※副館長兼務
専門職 (空席)
専門職 吉野 貴子 ※再任用
事務補佐員 酒口 ひろみ(R5.9.30まで)
事務補佐員 北島 真希子(R5.10.1から)
事務補佐員 平川 千絵子(R5.10.1から)
事務補佐員 室田 恵実

IX. 年譜

令和5(2023) 年

6月 「大高正人建築設計資料」贈与契約締結(30日)
7月 「高橋訥一・第一工房資料2023年贈与資料」
贈与契約締結(3日)

「文化庁国立近現代建築資料館[NAMA]10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」第1部(25日～10月15日)

8月 国立近現代建築資料館運営委員会収集小委員会(第19回)(30日) ※Web会議

9月 国立近現代建築資料館運営委員会(第23回)(11日) ※Web会議

11月「文化庁国立近現代建築資料館[NAMA]10周年記念アーカイブズ特別展「日本の近現代建築家たち」第2部(1日～令和6年2月4日)

令和6(2024) 年

2月 「みんなの建築大賞」推薦委員会主催「第1回「みんなの建築大賞」大賞授与式(15日)※文化庁協力

国立近現代建築資料館運営委員会収集小委員会(第20回)(21日) ※Web会議

国立近現代建築資料館運営委員会企画小委員会(第18回)(29日) ※Web会議

3月 国立アイヌ民族博物館主催「令和5年度ブンカヲ協働展示「アイヌの建築と工芸の世界―チセ、マキリ、アットウシー」(1日～24日)※国立近現代建築資料館共催

国立近現代建築資料館運営委員会情報小委員会(第14回)(4日) ※Web会議

国立近現代建築資料館運営委員会(第24回)(18日) ※Web会議